



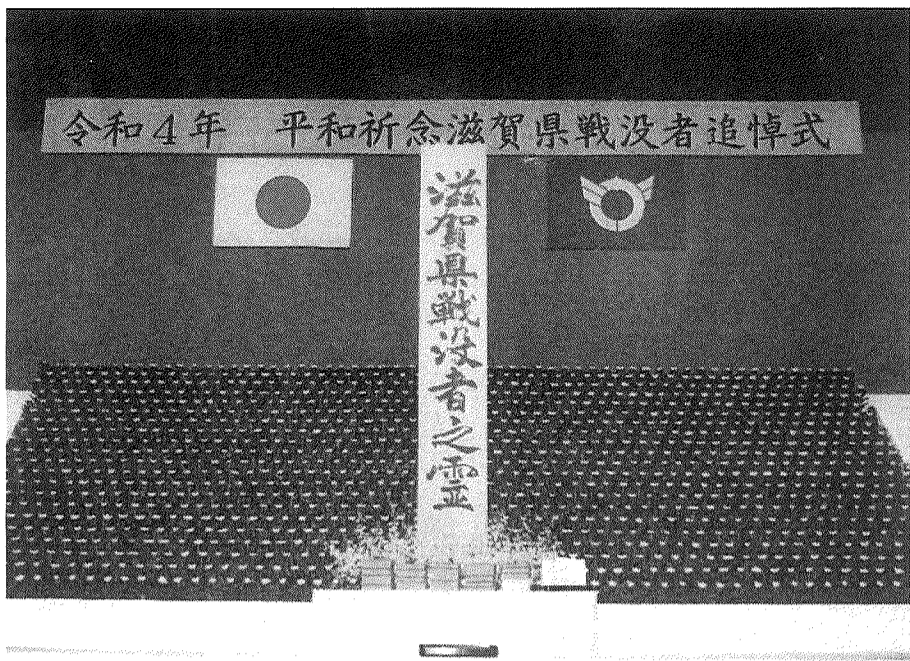
発行所
一般財団法人滋賀県遺族会
滋賀県大津市京町4丁目3-28
(滋賀県厚生会館1階)
電話 (077)522-7227
FAX (077)522-7233
発行責任者
滋賀県遺族会会長
山川 芳志郎

平和祈念滋賀県戦没者追悼式

戦争の悲惨さ、平和への願い 今の平和は戦没者の尊い命のもとにある

滋賀県遺族会副会長 澤本 長俊

9月3日、滋賀県主催の「令和4年平和祈念滋賀県戦没者追悼式」が米原市の県立米原文化産業交流会館で開催された。



今年も昨年同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、規模を縮小しての開催となりました。式典の進行は、滋賀県遺族会青年委員の貴多祐美子さんによって進められました。まず、三日月大造滋賀県知事が式辞を述べられ、滋賀県内で3万2715人の方々が、国を思い、故郷を思い、家族を思って尊い命を捧げられたことに心からの哀悼の誠を捧げられ、今の日本の平和と繁栄は、戦火の中で多くの犠牲になられた方々のもと、築かれてきたことを忘れてはならないと戦没者の皆様への感謝を述べられました。最後に、遺族の皆様への平和への強い思いを、次の世代へ引き継いでいくため、今後も努力していくと誓いの言葉を述べられました。

その後、岩佐弘明滋賀県議会議長が、追悼の言葉を述べられ、戦没者への心からの哀悼の誠を捧げられました。山川芳志郎滋賀県遺族会会長からも追悼の言葉と、現在の平和で豊かな社会は戦火で尊い命を犠牲にされた戦没者の皆様のお蔭と感謝を述べられました。戦後77年が経過し、戦争を知らない人が約9割、戦争の悲惨さ、愚かさという思いが薄れつつある今日、残された傷跡を再度見つめ直し、語り継いでいくため、風化防止委員会をつくり、未来永劫、戦争の怖さ、悲惨さ、平和への思いが風化しないよう取り組んでいくと強い決意を述べられました。

平和への強い思いが伝わる、素晴らしいメッセージでした。最後に、平和への思いを込めて、長浜小学校合唱団の皆さんによる合唱を聞かせていただきました。「琵琶湖周航の歌」と「ふるさと」の2曲で、故郷を思い、平和を願う気持ちが会場の皆様に伝わる素晴らしい歌声でした。

今年も規模を縮小しての開催とはいえ、参列者の皆様、今の平和な社会への感謝、戦没者の皆様への感謝の気持ちが伝わる、たいへん意義ある追悼式であったと思います。この追悼式開催の意義、重要性を認識され、開催いただきました三日月知事をはじめとする県当局に心から感謝申し上げます。

平和メッセージ

米原市立双葉中学校3年 久保田 真央

北居 和紗



〔久保田〕

77年前の悲劇を誰が語り継ぐのでしょうか。

以前、私は家族で広島原爆ドームを訪れました。資料館には、当時の写真や現物がそのまま残されていて、人々が助けを求めている声が聞こえてくる気がし、何とも言えない感情になりました。

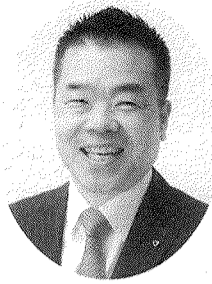
また、被爆した時刻のまま止まった時計、溶けてさびついた自転車などを目の当たりにしたときには、原爆の恐ろしさをまざまざと思い知らされました。昨年、滋賀県平和講座で戦争を経験された方がおっしゃっていた言葉がありました。それは「戦争の記憶が失われたとき、再び戦争が始まる」という言葉です。戦争を経験した人がだんだん少なくなってきた現在、戦争を経験していない私たちにできることは何でしょうか。私は、戦争に関する資料館に行ったり、戦争の話題を意欲して発信していくこ

とが、私たちにできる一つの方法だと考えます。私も、昨年の平和講座の中に印象に残っている話があります。滋賀県でも空襲があり、学校からの帰宅途中に水のはってあった田んぼの中にかくれた、という話です。私は、それを聞いて、滋賀県は空襲が少なかつたとはいえ、死と隣り合わせの生活だったのだなと知り、戦争の恐ろしさを感じました。誰もが知っているウクライナ情勢。毎日テレビで見る悲惨な光景。過去の戦争の資料の中で見た映像のように、恐ろしい光景です。話を聞いて、自分で想像するものとは比べものにならないくらい残酷です。しかも、テレビに映る世界が全てではないと思います。戦争を避けて他国に逃れられたとしても、他国で言葉も通じない、仕事に就けない、父親、恋人が兵士としてウクライナに残っている苦しみ、家族を亡くした憎しみ、少し前までは想像もしなかった現実があります。このように考えてみると、戦争がもたらすものは目に見える被害だけではなく、その奥に隠された心の傷や苦しみがまた深いと思います。その戦争が私たちの生きるこの地球で今もなお繰り返されているのです。

私は「正義の反対はもう一つの正義」だと考えます。皆さん、今までの戦争のことを考えてみてくださ。どの国も自分たちが正しいと考え、自分たちの正義を守るために戦っていたように感じます。私たちが生きるこの時代で一番大切なのは、相互理解。そう思います。久保田 私たちが思う平和、それは「互いに意見を出し合い、それぞれに互いの意見を理解しよう」という広い心を持ち、より良い社会を目指していくことだと思います。北居 去年の平和講座で、戦時中、長崎におられた方の話の中の「戦争は絶対に経験なんかしてほしくない。これからは話し合いで解決できる社会になってほしい」という言葉が今でも忘れられません。久保田 時には意見が食い違いますが、あつたとしても、それを武力で押さえつけることはあつてはなりません。北居 私たちが戦争を語り継ぐことが平和な世界への一歩になることを願っています。久保田 そして、平和に過ごせる一日一日が当たり前ではなく、昨日と変わらぬ生活が貴重であると認識し、平和な日が増えてほしいと願います。岸田 孝一氏(きしだこういち)滋賀県遺族会元会長、元日本遺族会評議員)9月24日死去。81歳。葬儀・告別式は近親者で行われた。

平和への誓いを新たに

滋賀県知事 三日月大造



木の葉も色づき始めました。錦秋、皆さまにはますますご清栄のことと存じます。

終戦から77年を経て、戦後生まれが社会の大半を占めるようになり、戦争体験の風化が懸念される今日、先の大戦から学びとった多くの教訓を次の世代にしっかりと語り継いでいくことが今を生きていく我々の使命であると考えております。

もつと子どもたちに参加してもらえれば、更に輪が広がり、子どもたちやその家族で平和を考える機会となるといふ思いから、今年、長浜小学校合唱団に平和の想いを込めた歌声を披露していただきました。平和な世界を永続させるために一人ひとりが何をなすべきか率先して考えるきっかけとなつてほしいと願っております。

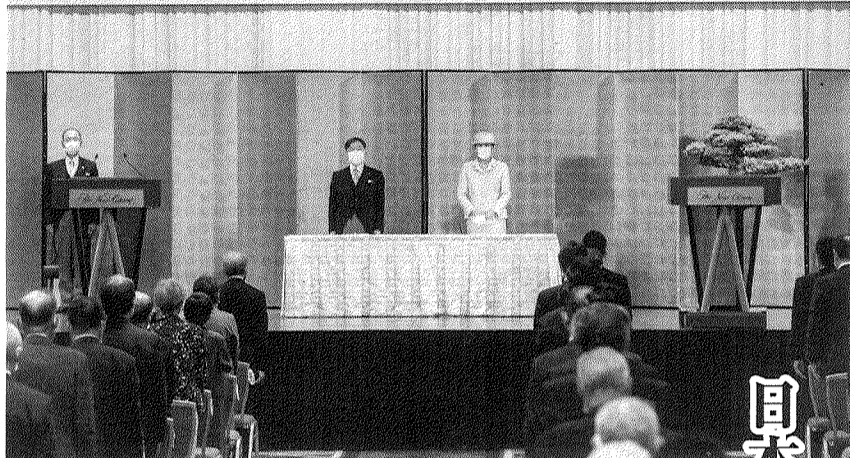
さて、平和を願う心を育むための拠点となる滋賀県平和祈念館は、「モノと記憶の継承」自ら

積極的にご活用いただきたいと存じます。また、ウクライナ侵攻など今なお紛争の絶えない世界情勢のなか、平和を希求する声が高まっており、世界の恒久平和を共に考え、行動に移したいと考えております。私自身も(私の親も)

世界共通の願いである「恒久平和」「友好の輪」をつくるために力を尽くしてまいります。今を生きている私たちが、戦後80年、100年とこれからも平和な時代を引き継いでいくために、先人の悲しみや苦しみがあつた時代と今が「つながっている」ことを決して忘れてはなりません。誰もが安心して、心豊かに暮らせる美しい湖国滋賀を未来に引き継ぐため、不断の努力を続けてまいります。平和と友好の輪が世界に広がるよう、ともに頑張りましょう。

御英霊の御霊に哀悼の誠を捧げますとともに、御遺族の皆さまのこれまでの御労苦に対して深く敬意を表します。遠く故郷を離れ、愛する家族を思いつつも、亡くなられた多くの方の思い、肉親を失われた御遺族のお気持ちを想うとき、今なお悲痛の思いが胸に迫つてまいります。

日本遺族会創立75周年記念式典



天皇后両陛下ご臨席のもと行われた記念式典

日本遺族会75周年式典 盛大に

滋賀県遺族会事務局長 森野 愛子

日本遺族会は、昭和22年に日本遺族厚生連盟として発足して以来75周年を迎えました。このことを記念するとともに感謝の意を表すため、9月12日に東京都千代田区のホテルニューオータニにて「日本遺族会創立75周年記念式典」が挙行されました。式典には天皇后両陛下の行幸啓を賜りました。

最初に、天皇后のおことばを賜り、岸田内閣

総理大臣、細田衆議院議長、尾辻参議院議長、戸倉最高裁判所長官、鳥取県平井全国知事会代表のご祝辞をいただきました。また、75周年記念により、日本遺族会会長表彰が124名の方に授与されました。滋賀県からは高島市の木下清彦氏、日野町の山崎靖子氏、米原市の横田明美氏の3名が受賞され、10月29日の滋賀県戦没者遺族大会で表彰状を授与していただきます。

水落日本遺族会会長の挨拶では、戦争を知らない世代が人口の9割、戦没者遺児の平均年齢も80歳となり、早急に次世代に繋いでいくことの必要性をお聞きしました。私たちが次の世代にバトンがうまく渡せるように日々考え、努力しないといけないことを厳粛に受け止めさせていただきます。

春の叙勲 栄えある受賞
政府は4月29日付で令和4年度春の叙勲及び褒章受章者を発表しました。栄誉に輝いた本会の会員をご披露させていただきます。

瑞宝単光章
的場恵美子(81歳)
滋賀県栗東市辻345
滋賀県遺族会理事

女性部研修会を終えて

滋賀県遺族会女性部 木津 美智子



秋冷の候、会員の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。

去る6月2日、真夏のよう暑い中、女性部の研修会が長浜文化芸術会館にて開催されました。理事様、評議員様、郡市会長様、女性部員様127名、計166名のご参加を頂きました。

当日は、ご来賓として日本遺族会会長の水落敏彰氏を授与していただきます。

米様にご臨席賜りました。また、滋賀県遺族会相談役の國松善次様には「次世代に期待するもの」と題して講演をいただきました。次世代にいかにかバトンを渡すことが出来るのか、私たちに早急に課せられた課題や義務は多く、重く感じました。

身体は少しづつ衰えてきておりますが、平和を願う気持ちはいささかも衰えてはおりません。しかし、大変残念なことに国際連合常任理事国のロシアによるウクライナへの武力侵攻があり、尊い命が奪われていきます。遠い国の出来事とは決して思うことができない今日この頃です。一日も早い終息を願うばかりです。



秋冷の候、会員の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。

(京都新聞2022年8月16日付朝刊 ※京都新聞社提供)

全国戦没者追悼式に参加して

東近江市遺族会 藤澤 喜八郎



戦後77年経った8月15日、政府主催による全国戦没者追悼式が、東京の日本武道館で行われました。式の参加者は例年では約6000人規模ですが、昨年は新型コロナウイルス

イルス禍による緊急事態宣言下であったため190人だったのが、今年も全国遺族約600人と天皇皇后両陛下、岸田首相ほか政府関係者をあわせて992人に増員され、滋賀県からは遺族18人が参加し、私は光栄にも県を代表して献花させて頂きました。

式典は岸田首相が、戦没者約310万の御前に御霊安かれと心よりお祈りを申され、戦争の惨禍を二度と繰り返さないことを誓い、式辞を述べられました。この後、天皇皇后両陛下が慰霊碑の前に進まれ、吹奏楽団による「君が代」演奏の後、正午から一分間参加者全員が黙祷を捧げました。天皇陛下は、戦後の平和に想いを馳せつつ、過去を顧みて深い反省の上、再び戦争の惨禍が繰り返すことのないことを

願ひ、心から追悼の意を表すと、お言葉を述べられました。この後、衆参両院議長及び最高裁判所長官、最後に遺族を代表して岡山県の大月健一氏が追悼の辞を述べられました。ここで、天皇皇后両陛下が退席され、岸田首相をはじめ、衆参両院議長、最高裁判所長官、遺族会代表、各閣僚及び関係者、最後に各県の代表者による献花が行われ、約一時間にわたる式典は終了しました。

全国戦没者追悼式には今回で2回参加しました。前回は平成17年で、全国の参加者は6300人。当時は、戦没者一柱に一回のみと決められていましたので、もう二度とは行けないと諦めていたのですが、何年前にこの枠が外され、参加することが出来ました。また今回は18人と多くの参加者の中から代表献花をさせて頂くこととなり、身に余る思いです。

今回全国からの参加者の皆さんは大変高齢と思われる方が多く、この追悼式が続く限り、できるだけ多くの皆様に参加させたいことを望みます。この2日間、京都新聞社の記者から、戦没した父の事や当時の記憶、遺族会活動、この追悼式において父に何を伝えたいかなど、いろいろな質問を受けました。

この中で、「ロシアがウクライナに侵攻して6か月になり、その終結はまだ見えない? これを見ると無謀な戦争に突き進んだ旧日本軍がこれに重なり、人間同士でどうして話し合いで解決が出来ないのか、如何なる理由があるのかも、戦争は人間のすることではない」と強調しました。それらを集約して、その記事が8月16日の京都新聞朝刊1面に掲載されました。

今年もコロナ禍ではありませんでしたが、「みたま祭」が例年通り8月13日〜15日の3日間斎行されました。幸い天候は昨年と違い雨も少なく、提灯の撤収も予定通り無事終わりました。

ただ、みたま関係員もほとんど高齢化して、提灯の二段目の設置は高所で危険でもあり、今年度より一段つりとしました。但し、本殿前は従来通り二段の設置です。特に今年度は会員の方で、竹灯籠を奉納して頂き、誠にありがとうございます。又、参加者については、コロナ禍でもあり、バス等での団体参拝は中止となりましたが、個人での参詣者は最近はずいぶん増えてきました。後になりましたが、みたま祭関係員の皆様には暑い中、早朝より準備から提灯の撤収等最後までご協力いただき、有難うございました。

彦根市遺族会会長 吉島 利博

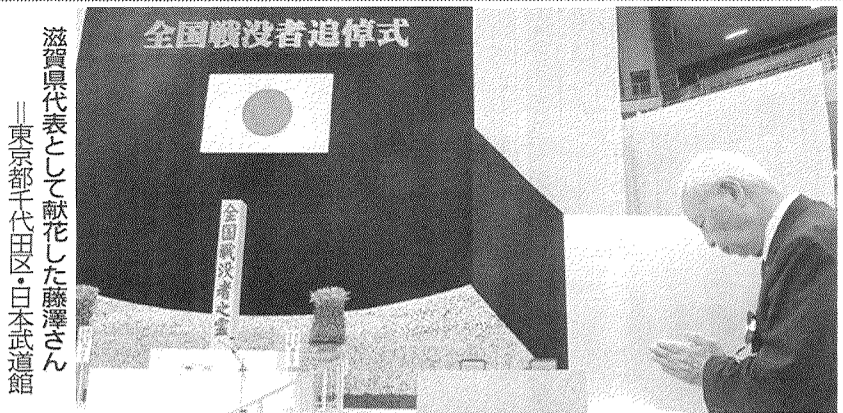
「戦争は人間のすることではない」

残る記憶だ。

東京都千代田区の日本武道館で15日に開かれた全国戦没者追悼式には、滋賀県から18人の遺族代表が参加した。「戦争は人間のすることではない」。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻で現在進行形の戦争を目の当たりにした遺族たちは亡き肉親を悼み、不戦の誓いを新たにしました。

滋賀県代表を務めた東近江市の藤澤喜八郎さん(83)は、戦死した父喜市さんへの思いを胸に式典に臨んだ。喜市さんは終戦直前の1945年7月末、フイリン・セブ島で飛行場建設に従事中に39歳で亡くなった。出征直前の面会で母と親子3人で家族写真を撮り、喜市さんから「立派な人間になるように」と言い聞かされたのが、わずかに

京都は参列見送り 滋賀遺族代表、肉親悼む



滋賀県代表として献花した藤澤さん
―東京都千代田区・日本武道館

京都府からは14人が参列予定だったが、府は新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて今回は見送った。(堀内陽平)

故 岸田孝一氏を偲ぶ

第8代滋賀県遺族会会長を務められた岸田孝一氏が令和4年9月24日に81歳で逝去されました。故人の主な足跡をたどります。

昭和51年、高島郡遺族会に青壮年部を結成するにあたり、自ら結成準備委員長を務め、結成に尽力されました。その後、平成6年高島町遺族会会長、平成14年からは高島郡遺族会会長を歴任。戦没者追悼式の実施意義を理解し、会員に周知徹底するなど組織の強化に努められました。

その後、滋賀県遺族会では、広報、組織、処遇、企画などの委員長を歴任。平成16年からは理事に就任。平成26年から2期4年間、滋賀県遺族会の会長を務められました。この間、特に平成27年には新しく青年部という組織の誕生に尽力されました。故人は持ち前の誠実さ、行動力を遺族会活動に大いに発揮され、活動を指導、采配されたその功績は大であります。

尚、平成20年からは日本遺族会の評議員に抜擢され、中央情勢をいち早く収集しながら支部役員に周知するなど役目を果たされています。

これらの功績が認められ、平成24年には厚生労働大臣表彰を受賞されています。

お疲れ様でした。安らかに眠り下さい。 第10代会長 山川 芳志郎



提灯

沖縄「近江の塔」戦没者追悼式。平和祈念式典に参加して

亡き父との再会

東近江市遺族会能登川支部 今堀 治夫

去る5月28日から30日までの3日間、沖縄「近江の塔」戦没者追悼式・平和祈念式典に参加し、亡き父との再会を果たして参りました。

父は昭和19年6月舞鶴海軍団に入団し、約半年間の海軍兵としての教育期間を経て、20年1月に輸送船の機関兵として乗船し、出兵し戦死してしまいました。出兵することになった際、父から「今度の乗船で最後にな



「近江の塔」戦没者追悼式・平和祈念式典に参加した遺族会能登川支部のメンバーたち。前列は、能登川支部の役員と、後列は、参加者たち。

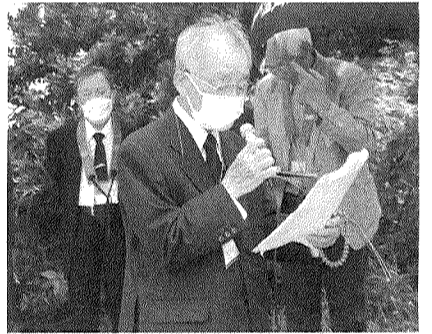
ります。先の大戦で、唯一厳しい地上戦の場となった20年3月からの沖縄の戦いの、ほんの2カ月ほど前に関わった戦死者の一人として「近江の塔」に合祀されております。

戦後77年沖縄への思い

日野町遺族会 奥野 義明

父が先の大戦で首里攻防を賭けた西原の戦いにおいて、昭和20年4月27日に亡くなったから、早77年の歳月が過ぎ去り、私も78歳を数える事となりました。

本日から4月26日から孫達の春休みにあわせて家族9人で、父が亡くなった西原の地を訪れる予定でチケットの手配も済ませておりましたが、新型コロナウイルスによる感染の収束が見えない中、残念ながら訪れる事を断念する事と成りましたので、今年度は私だけが、令和4年度沖縄「近江の塔」戦没者追悼式典・戦跡巡拝に参加



私にとりまして沖縄の地は、物心がつく前に亡くなつてしまった父と二人して語り合うことが出来る、大変大切なところとなっているのであります。

私は、このような悲劇が地球上から無くなる事を願っておりますが、残念ながら世界各地では紛争が絶えず、この2月末にはロシア軍のウクライナへの軍事侵攻による、非人道的な無差別の攻撃を避ける為の地下室での避難生活と、戦火をくぐり抜けて隣接国に避難する母と子、年配者の人達の疲弊した姿、そして地面に突き刺さった不発弾、大きな穴、拷問された人たちの遺体、廃墟と化した町の凄惨な姿を新聞やテレビの報道を通して目の当たりにしますと、77年前の沖縄の姿と重なり、胸をえぐられる思いが致します。

滋賀県遺族会 活動報告

滋賀県遺族会会長 山川 芳志郎

8月は私たち遺族にとって重要な月です。終戦を迎えた月だからです。暑い暑い、おなががすいた、しかもマリアアと戦いながら、私たちの父やおじは戦地で尊い命を落としました。極寒の地で尊い命を落とした戦没者もたくさんおられます。暑い、寒いと言つて英霊への顕彰をやめてはなりません。追悼の誠を捧げます。



また、第26回参議院議員通常選挙が7月10日投票で行われました。この選挙では、後援会入会紹介から始まり、選挙の宛名書、集会への参加、電話作戦など大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

この夏の主な遺族会の動きについて報告させていただきます。

① 提灯は大、小合わせ3109個、奉納していただきました。会員はもとより、市町の首長、国会・県会・市会の議員の皆さんからも協力いただきました。ありがとうございます。

② 特別企画として今年「竹灯籠」を320個奉納していただきました。奉納者は小嶋宣秀氏(守山市遺族会会員)。本殿前には竹灯籠を並べ、「平」「和」と文字を作りました。また、参道の途中に石の階段があります。それを利用して「英霊に感謝」「ありがとう」「安らかに」と14個の竹に文字を書き入れ、ろうそくの火で浮かび上がらせました。その他の竹灯籠は参道の両側に並べ、320個すべての竹灯籠にろうそくの火を灯しました。また、8月13日の夕方には、このみたま祭りに三日月大造知事が参拝され、点火の18時30分まで残り頂き、竹灯籠に点灯していただきました。この私たちの取り組みはきつとご英霊に届いたと思います。

とどろいたなみ

「平和のよろこび展」開催

守山市遺族会会長

岡本勝一



新型コロナウイルス感染症拡大の中、今年も万全な感染防止対策を講じて「第30回平和のよろこび展」が8月3日～10日（9日休館）まで一週間、守山市民ホールにて守山市・守山市遺族会共催で開催されました。通常展示エリアと特別企画展示エリアに分けて展示しました。

通常展示エリアでは、遺族会員が持参した遺品の展示と「守山空襲」及び「立田飛行機墜落証言集」展示と、壁面には滋賀県遺族会主催で実施した「沖縄及び海外戦跡慰霊巡拝の写真パネル」を掲示し英霊顕彰活動状況を、特別企画展示エリアでは「滋賀県平和祈念館」が企画された「フィリピンの戦場（ルソン島編）」

と「子どもたちが描いた戦争」展の一部をお借りした展示と、遺族会がある収集家よりお借りした「戦中・戦後の子供たちの遊び道具と教科書類」を展示しました。

遺族会員の遺品の中には、軍隊手帳・軍服・日章旗の寄せ書き・出征時ののぼり旗・家族写真等があり、特に注目すべきは軍属の戦没者のものとして「戦争の功績に対する褒賞状」まであり、これを見て「戦争は人間がするものではない」と感じました。特別企画展示の「フィリピンの戦場（ルソン島編）」では、滋賀県出身の戦没者の3割超がフィリピンで戦死した激戦地の戦場とあって、遺族の想いのコメントと戦場写真が展示されており、改めて戦争の悲惨さを物語っていました。

また、「子供たちが描いた戦争」展では、戦争当時子供であった方々が見た情景等を素直に描いた絵がこんなに残されていたとは、私自身は絵を描いた覚えはないので大変感動しました。

1週間の入場者数は例年より少なく270名余でしたが、初日に小ホールで「ウクライナからの留学生による講演会」が開催されたこともあり、その前後に100名余もの多くの方が来場されたことで少し救われた感じがしました。

また、7日には三日月大造滋賀県知事が来場され、熱心に見学頂きました。期間中ご来場頂いた皆様、ありがとうございました。

3年ぶりに「春季戦没者慰霊祭」

近江八幡市遺族会会長

高木健三

新緑の日牟礼神社の境内にある慰霊塔前にて、5月20日に近江八幡市遺族会主催の「春季戦没者慰霊祭」が執行され、日牟礼八幡宮の榎宜様に神事をお願いして厳かに執行されました。

近江八幡市小西市長様、同市議会議長様、県議会議員様、近江八幡市各組織の代表様、ご来賓の皆様が参列していただき、御霊が安らかに鎮守されることを願い、お祈り

申し上げました。

新型コロナウイルスの影響で3年もの間、取りやめになっていたが、今春はたくさんの方々のお参りをいただき、無事に終えることが出来ました。

戦後77年を迎え、改めて多くの尊い命が失われたことは永遠に忘れることはできません。あの忌まわしい戦争の記憶も年々風化されています。それなのに今も尚、世界で

は愚かな争いが続いています。一日も早く収束し、穏な日々が戻ってくることを切に願います。

私達は、ご英霊の尊い犠牲の上に、今日の平和と繁栄が保たれている事をしつかり心に刻み、恒久平和を祈念いたします。



地元小学校の平和学習会に出席して

愛荘町遺族会

加藤光保

この度、愛荘町立秦荘東小学校の6年生社会科学習「戦争

争当時の生活・思い出を語る会」に、戦争の関係者として愛荘町遺族会遺児8名が出席させていただきました。

学校教育の一環として先の戦争の学習をされていることは大変意義深いことであり、私自身、あの「戦争」が「何」であったのかを思い返す機会を与えていただき、二度とあのような悲惨な戦争を起こしてはならないと決意を固くすることができました。

あの戦争と私を関係づけるものは、

父が戦地で倒れ、日本が敗戦で大変な戦後の生活を送ることになったことでもあります。父が戦争に参加したのは、徴兵制度により国民皆兵役の義務が課せられたからでありました（現憲法下ではこの義務はありません）。

児童の皆さんは東近江市の滋賀県平和祈念館で、今日の事前学習として、戦地の様子や空襲の写真、出征の場面等太平洋戦争について映像で学習をされました。平和祈念館に「平和の尊さを知る」ために県民が訪れられることを願うものです。

学習会で私は、特に戦後の経済状況について感じたことを伝えました。戦後混乱した中で物価統制令が施行され、「まる公」「闇値」という言葉が行き交い闇市ができて、列車での搬送屋が永らく続きました。この頃は通学に国鉄（現JR）を利用して

おり、目で見た戦後の強烈な印象です。私たちは必死の生活でありました。次第に日本の経済が活発に進展し、東京オリンピックの開催、新幹線の開通、名神高速道での物流など、飛躍的に物の生産が伸び、生活の質の変化を感じられるようになりました。

長年の戦争で多くの犠牲の上で得た、何不自由のない日々の生活ですが、今世界規模で温暖化の問題や海洋航行の行方、壊滅的兵器の実験報道等、私達の身近に迫る「平和」を考える諸課題が山積しているように思います。

国際連合を中心に「話し合い」で解決を図り、戦争への道は絶対に進んではなりません。「平和学習」の勧めを強く希望します。今回、私の父の死と戦争を振り返る機会になりました。感謝申し上げます。

知事とともに滋賀県戦没者英霊塔の清掃に想う

英霊顕彰会副会長

角野 彰夫

7月下旬の暑い日、滋賀県戦没者英霊塔（膳所公園）の清掃を8月26日に実施する旨の案内が届きました。昨年度までは毎月の清掃でしたが、今回久しぶりの英霊塔の清掃、しかも三日月大造知事自ら参加されるとのことで、知事が参加されることの意義とか、また新たな気持ちで先の大戦を自分ながらに見直すきっかけになればとの思いで参加させていただきました。

徴兵検査に合格した健康な男子は、政府機関が発行する赤紙一枚で戦地に赴かれまし



た。そこには召集された人の家族や交友関係などはほとんど考慮されていません。戦地では極悪非道な環境におかれ、それでも日本のために戦い、そして戦死されたのです。今、戦争のない平和な日本が戦没者の犠牲の上にあることを一時なりとも忘れてはならず、深い追悼の意を表し、深甚なる敬意を込めて慰霊し、そしてその功績を広く顕彰するとう、戦没者遺族会ではありふれた言葉も今改めて深く心に刻み、想いを新たにしなければなりません。

を考えるとともに、犠牲となった英霊の皆さんの功績を、今改めて次の時代を生きていく世代に伝えていかなければなりません。三日月知事は、今回またまた祭やおよそ10人の職員さんとともに、滋賀県戦没者英霊塔

皇子山陸軍墓地と膳所英霊塔の彼岸法要

滋賀県遺族会事務局長

森野 愛子

皇子山陸軍墓地と膳所英霊塔の彼岸法要を9月15日に執り行いました。

この日は、大津市仏教会の会長、前阪良憲氏を導師としてお招きし、丁寧に経を唱



明治建軍以来の墓石が残る陸軍墓地で、貴重な歴史遺産でもありません。これから維持管理を継承していかなければなりません。

浄敵院の忠魂碑清掃

近江八幡市遺族会安土支部長

水原 一夫

今年も例年通り、近江八幡市遺族会安土支部において、浄敵院の忠魂碑（大正8年9月建立）を清掃させていただきました。遺族会会員も高齢化になり人手不足を心配していたが、今回は地元選出議員さんや英霊に対しご理解の深い方々が参加下さり、老若男女を問わず、20数名で朝6時より清掃させていただきました。

追悼法要を終え、388柱の英霊に白い菊を献花させていただきました。その後、勝山住職よりねんごろなるお言葉を頂戴した。



日は長崎に世界で初めて原爆が投下された。死者の数は実に広島14万人、長崎7万4000人、一瞬にして尊い命が奪われたのであった。しかもその多くは、幼い子供や老人の非戦闘員であって、無差別爆撃そのものである。

を防ぐ手段として、原爆投下は止むを得なかったと正当化したのである。64回目にして初めて、投下国のアメリカから駐日大使が広島での平和式典に参列したが、アメリカ本国はこの参列に賛否両論、むしろ反対が多かったらしい。その上「我々は広島において何一つ謝罪することはしない」とコメントしたのである。

それを比べ我が国は、歴代首相が代わるたびに中国、韓国、東南アジア諸国に対して、「この大戦では貴国に対して大変ご迷惑をお掛けして申し訳なかった」と謝罪し続けている。現実と比べ、そのギャップは大きく、まさに勝てば官軍、勝者の論理そのものであって、アメリカにここまで言われて黙っている日本が情けなく、屈辱すら覚えるのである。戦争に敗れ、二度と戦争を起さない反戦の誓いを立てたことはよかったとしても、8月15日の終戦記念日が来るたびに、戦争責任を感じ自信を喪失し、自虐的になる記念日になってはいないか。ひたすらに働き続け、経済大国になって（今では世界第3位になってしまった）世界中に貢献してきたのだから何も卑下することは無い。胸を張って、8月15日を国家の尊厳や誇り、愛国心についてもう一度しっかり考える記念日にしてはどうかと思うのである。

遺族会に思う

東近江市遺族会
福島睦一

「遺族の友第268号」に掲載された「遺族会と護國神社の明日を考える」の國松さんの記事に感動しました。

常日頃、自分自身、東近江市の英霊にこたえる会の役職を任されて大変苦しんでいる最中です。

私は父の像の除幕式に何も知らずに出席して、県下にこんなにも多くの素晴らしい仲間がいたことに自分を責めました。その後、遺族会青年部は昭和45年に新体制による全国組織が結成され、茨城の成島さんに代わって滋賀県から國松さんが中央執行委員長に選出されました。

当時は靖國神社の国家護持法案が毎年のように審議されましたが、継続審議、挙げ句の果ては、衆議院で通過したのに参議院で否決廃案という大変遺族にとって最悪の結果となりました。そこで國松さんのリーダーシップで昭和59年8月13日から15日にかけて靖國神社の社頭で内閣総理大臣の靖國神社公式参拝を願って50時間に及ぶ断食祈願が全国から132名、滋賀県からは國松善次、松井尚之、岸田孝一、今村敏生、中野源蔵さんの5名が参加された。その時、内閣総理大臣の中曾根康弘さんの「君たちの要望はよくわかった。事故があつてはならない。私は必ず公式参拝を約束する」との伝言が藤波

組織のリーダーは、今非常に困難な時と考えます。学校で教えることのない、父、母

遺族会会員の高齢化と地区戦没者忠魂碑の維持管理の在り方

東近江市遺族会平田地区
平井康博



忠魂碑の現況(光明寺境内)



忠魂碑移設先(平田コミセン駐車場の鎮魂堂)

私たちの郷土、旧平田村においては、明治・大正・昭和の三年代の戦役に殉じられた戦士をお祀りする忠魂碑を当時の平田小学校校庭に建立されていましたが、第二次世界大戦後、教育施設(校庭)内の建立が認められなくなり、当時の地区区長会で検討され、光明寺檀家の協力を得て、当時の戦争復員者等の手により、現在の光明寺境内に移転再建されたものであり、その後、当時の平田地区区長会等で「慰霊顕彰塔建立」の動きがあり、昭和53年11月に「慰霊顕彰塔」が平田地区の

中央にある地区公民館敷地内に建立されました(現在は同敷地内の鎮魂堂内)。当時の建立趣意書をみると、「当平田地区出身の御英霊も160余柱を数える。国家の繁栄を胸に尊い生命を捧げられました。これらご英霊を祀る事によって、このような悲劇を二度と繰り返さない平和な郷土建設に努めたいと存じます」と明記されています。将来的には、これら先人の心を思う時、忠魂碑や鎮魂堂の維持管理は、今を生きる私たちとしても未永く、子々孫々まで引き継ぎ、守らなくてはならないと考えます。このことから、昨年度から今年度にかけて、光明寺境内の忠魂碑を、現鎮魂堂敷地内(現平田地区コミセン敷地内)に移転して、今後は、世界の恒久平和を願う平田地区のシンボルとして維持管理を継続していく所存でございます。

を思い先祖を大切にすることを育てる教育は家庭にしかできません。ところが、各家庭は核家族化が進んで、同居家族の減少が甚だしい。田舎の過疎化は急速に進んでいる状態で、益々困難を極めます。となると、結局戦争を起こした政府が責任を取って、総ての解決に努力する事を願います。

そのほか、遺族会の要望事項では未回収のご遺骨、特に海に残る戦艦のご遺骨の調査回収を早めて欲しい。特別弔慰金の拡大を願ひ脱会者を防ぎたい。一般社会の人達に今の平和の礎になられた英霊を顕彰する運動に参加を呼び掛ける行動が大切ではないでしょうか。

「滋賀応援寄附」のお願い

滋賀県平和祈念館

滋賀県平和祈念館では、「滋賀応援寄附」を募っています。いただいたご寄附は、展示事業や子ども達への平和学習支援に活用します。「遺族の友」に同封のちらし(左写真)をご覧ください。ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

あなたの平和へのおもいを子どもたちへつなぎませんか

滋賀県平和祈念館

〒527-0157 滋賀県東近江市中野町4-31 電話 TEL: 0749-46-0200 FAX: 0749-46-0250

【お問い合わせ先】 滋賀県平和祈念館 事務局

【お問い合わせ先】 滋賀県平和祈念館 事務局

【お問い合わせ先】 滋賀県平和祈念館 事務局

◆滋賀護國神社 英霊顕彰館だより◆

【入館者ノート】

☆7月30日 湖西よりやつと参れました。4人の孫・子とお父さんに逢いに来ました。夫も86歳となり、一度お逢いしたいと時々言っていたけれど、今日孫とつれられてこんなうれしいことはないです。ありがとうございました。(高島市女性)

☆8月15日 お父さんに会いに来ました。私は81歳になりました。実家は妹が守ってくれています。私は嫁に嫁いで57年、主人と別れて5年目の夏。しっかりとおもとてなして、お父さんと会えて嬉しいです。元気で頑張っていきたいと思います。どうか見守っていてください。(蒲生郡女性)

【来館者数】

6月 8人
7月 20人

※ノート記載者のみ

一日も早い、終結を望んでいます。(広報 東郷重明)

恒久平和への精進努力を誓う

竜王町遺族会

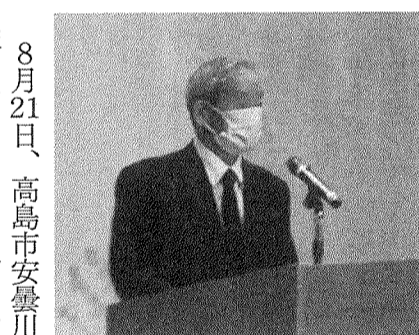
西村 久一

「竜王町平和祈念式」が7月30日、竜王町公民館にて挙行されました。以下は、森岡武夫竜王町遺族会会長の「追悼の言葉」です。

本日、ここに第12回竜王町平和祈念式が挙行されるにあたり、戦没者遺族を代表して、謹んで追悼の誠を捧げます。私たち戦没者遺族にとりまして、忘れることのできない日を今年も迎えようとしていきます。先の大戦が終わり、平和がよみがえったあの終戦の日です。

「帰らぬ人となられたご英霊の無念、苦しみ、尊い命を捧げられたご英霊の皆様に思いを馳せる時、今なお尽きるここのない悲痛な思いが胸にこみあげてまいります。顧みますと、私たち戦没者の遺族が歩んできた道は、癒やしたい苦悩と長い試練の年月でありましたが、喜びは分かち合い、悲しみは共に涙を流し、助け合い、励まし合いながら、英霊顕彰・戦跡慰霊巡拝・遺骨収集と、平和への努力を怠らず懸命に生き抜いて参りました。今日の平和と繁栄は、諸英霊の尊い犠牲の上に築かれて

して忘れてはなりません。現在、私たちが心豊かに日々無事かされていることへの平和の享受に心からの御礼と、ご加護に深く感謝の誠を捧げ、ご英霊のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。戦後77年が経つ今年、世界ではロシア軍によるウクライナへの軍事侵攻の勃発など、平和を希求する私たちの思いとは異なる状況にあります。ここに改めて、過去の悲惨な戦争から学んだ教訓と平和の尊さを私たち遺



竹井昌夫高島市遺族会会長

高島市戦争犠牲者を追悼し平和を誓う 市民の集い

高島市遺族会

安藤 道雄

二度と悲惨な歴史を繰り返さぬよう、恒久平和になお一層精進、努力することをお誓い申し上げます、併せてご英霊たち

ちがこよなく愛した故郷、竜王町の限りない発展をご祈念申し上げます、追悼の言葉といたします。

8月21日、高島市安曇川公民館ふじきのホールにおいて、「令和4年度高島市戦争犠牲者を追悼し平和を誓う市民の集い」が開催されました。福井正明高島市長はじめご来賓をお迎えし、多数の遺児の方々やそのご家族の姿がありました。開会の後、先の大戦で犠牲となられた方々へ黙祷を捧げました。

私は、滋賀県遺族会青年部の一人として今回追悼式に参加させて頂きました。戦争による悲しみや苦労というものが、戦後77年という年月を経て、遠い記憶になりつつある今日ですが、戦争を二度と繰り返さず、平和な世の中を作っていく努力を続けていかなければならないと強く思いました。

私の祖父は、日本のはるか南方の西部ニューギニアで戦死いたしました。暑さと疲労と飢えとマラリアで亡くなったと聞かされたに、祖父はどれほど日本に帰りたいかたどらうと思えます。

戦後の時代を働き抜いて今の平和と繁栄の時代を築いてくださった私たちの親の世代の方々に感謝の心を忘れず、私は大切なことを子や孫の世代に伝えていきたいと心新たにいたしました。

ロシア・ウクライナ戦争の終結を願って

令和4年度東近江市戦没者追悼式が、7月16日愛東コミセンで開催された。本年もコ

ロナ禍での開催のため出席者は制限され、遺族会員、自治会関係者約200名が参加した。

式典では市内13支部の遺族会長が登壇し、菊花で飾られた慰霊碑前に戦没者3000柱の霊名簿を奉安した。

黙祷に続き、小椋正清東近江市長が「まもなく終戦から77年目を迎える、この長い歳月の経過とともに、戦争がもたらした悲惨な記憶が薄れつつあります。今、ウクライナではロシアの侵略により多くの無垢な市民の命が奪

われ、私たちに77年前

の惨禍を呼び起こすものです。今こそ、互いを思いやる利他の気持ちや倫理観の醸成が必要だ」と述べられた。

追悼の言葉が西澤東近江市議会議長、松浦東近江市遺族会長、知事代理井上氏、山川県遺族会長から手向けられ、松浦会長からは「2月に始まったロシアのウクライナへの侵略にかつての戦争の惨禍が重なり、心を痛めている。平和という普遍的な人類の願いを市民全体に広げ、深めることが私たちの大きな使命だ」と誓った。来賓紹介に続き、参加者全員が献花した。

次世代作文発表では、愛東中学校生徒代表の丸山さんと村山さんが校外学習で訪れた滋賀県平和祈念館での館員の解説や展示品を見たことから「当時の子供たちは勉強さ



「当時の子供たちは勉強さ

え、私たちに77年前

の惨禍を呼び起こすものです。今こそ、互いを思いやる利他の気持ちや倫理観の醸成が必要だ」と述べられた。

追悼の言葉が西澤東近江市議会議長、松浦東近江市遺族会長、知事代理井上氏、山川県遺族会長から手向けられ、松浦会長からは「2月に始まったロシアのウクライナへの侵略にかつての戦争の惨禍が重なり、心を痛めている。平和という普遍的な人類の願いを市民全体に広げ、深めることが私たちの大きな使命だ」と誓った。

来賓紹介に続き、参加者全員が献花した。次世代作文発表では、愛東中学校生徒代表の丸山さんと村山さんが校外学習で訪れた滋賀県平和祈念館での館員の解説や展示品を見たことから「当時の子供たちは勉強さ

え、私たちに77年前

—あなたの文章が—

活字になる! 本になる!

「自分史」「家族史」「戦地からの書簡」
記録として子孫に残しませんか?

「初めての方もプロがサポート! 少数数の注文もOK!」
お問い合わせ・お申し込み
(株)京都新聞印刷 商業印刷部
(平日 午前10時~午後5時)
☎075-241-5436
✉ katsufumi-kawada@mb.kyoto-np.co.jp